



2024年6月18日

各位

会社名 クリングファーマ株式会社
住所 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号
彩都バイオインキュベータ207
代表者名 代表取締役社長 安達喜一
(コード番号:4884 東証グロース)
問い合わせ先 取締役経営管理部長 村上浩一
TEL.072-641-8739

HGF（肝細胞増殖因子）の特発性肺線維症への応用研究 に関する金沢大学との共同研究開始のお知らせ

当社は、国立大学法人金沢大学（石川県金沢市）と HGF の特発性肺線維症への応用研究に関する共同研究契約を締結しましたので、お知らせいたします。

当社と国立大学法人金沢大学医薬保健研究域医学系呼吸器内科・矢野聖二教授、渡辺知志特任准教授は、HGF を用いた特発性肺線維症の治療薬開発を目指し共同研究を実施いたします。矢野教授らのグループは、病態の異なる複数の肺線維症モデル動物による実験系を確立しており、本共同研究では、ヒトの病態により近いとされる慢性肺線維症モデル動物を用いて HGF タンパク質の薬効試験を行います。当該モデルを用いることにより、ヒトでの臨床試験のデザインを適切に策定することが期待できます。当社は、本共同研究と並行して、突発性肺線維症患者を対象とする HGF タンパク質を用いた臨床試験の準備を進め、臨床段階の新たなパイプライン候補として当該疾病に対する創薬を目指してまいります。

当社は現在、線維化疾患のひとつである声帯癒痕を対象に国内で第Ⅲ相臨床試験を実施しております。声帯癒痕において HGF タンパク質の医薬品開発に成功すれば、声帯癒痕のみならず他の線維化が原因となる慢性疾患への適応拡大の可能性につながると考えております。当社は、本共同研究の成果を活用し、線維化疾患の次のターゲットとして肺線維症への適応拡大を積極的に検討してまいります。

なお、本件による当社の業績へ与える影響について、研究開発費に占める割合は軽微であります。

以上

突発性肺線維症について

特発性肺線維症は、原因不明の間質性肺炎の一種で、肺の不可逆的な線維化により乾いた咳や息切れなどの症状が出るようになり、ついには呼吸不全に至る病気です。特発性肺線維症は間質性肺炎の中でも特に予後が悪く、診断後の生存期間は3～5年とされています。

日本における年間の発症率は10万人対2.23人、有病率は10万人対10.0人であり、厚生労働省の指定難病に指定されています。既存の医薬品としては、ピレスパ（一般名：ピルフェニドン）とオフェブ（一般名：ニンテダニブエタンスルホン酸塩）の2剤が承認されていますが、より効果の高い治療薬が求められています。

HGF (Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子) について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学医学部生理学教室 岡野栄之教授及び整形外科教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癒痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癒痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象に HGF タンパク質医薬品の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、HGF タンパク質医薬品のレイトステージの開発パイプラインでは、脊髄損傷急性期を対象とする開発が第Ⅲ相臨床試験を終了し、声帯癒痕を対象とする開発は第Ⅲ相臨床試験を実施中です。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。